

実践記録（小1・生活科）

1 ねらい

デジタルカメラで撮影した写真を1枚選び、ペアの児童に発表する中で気付きを共有できるようにする。

2 手立て

- デジタルカメラで記録した画像の使用

自分が伝えたいことを記録し、それを提示しながら対話することで、相手に伝わりやすくする。また、聞いている人も質問や話をしやすくする。

- 話形カードや質問カードの使用

話し方に慣れていない児童に、どのような話し方や質問をすればよいかを理解させ、発表しやすくする。

3 実践の様子

自分が育てているアサガオを観察させる際に、写真を撮らせておいた。毎回、前の観察のときと変わったところを観察させ、その箇所の写真を撮影させた。たくさんの記録した写真の中から、友達に見せたいものが写っている写真を選ばせておいた。

本時では、最初に、発表のポイントを確認した。どのようにペアの友達に話したらよいかを話形カードで提示し、発表の見通しをもたせた。また、聞いている友達が質問しやすくなるように質問カードも提示した。

児童がペアの友達に伝える様子を見ていると、自分が撮影した写真を見せながら、「アサガオの花について

話します。花は青色です。とてもきれいです。」や「アサガオについて話します。葉っぱを触ると毛があります。つるが前より伸びました。」など、話形カードに書かれていたように内容を考え、伝えることができていた。しかし、その後の質問タイムではなかなか質問ができなかった。

次に、2人の児童に全体の場で発表をさせた。その際に、教師が「反応フリップ」を提示することで、それに合わせた反応をしながら、児童は発表を聞くことができた。

最後に、これからアサガオを育てるときに、頑張りたいことを書かせると、「花がもっと咲いてほしいので、お世話を頑張ります。」と育てることに楽しさを感じている記述が多く見られた。

4 成果と課題

- 自分が撮影して選んだ写真について、何を話すかを考えることができた。聞いている人も、写真があることで、何もない時より興味をもって聞くことができた。
- 話形を提示することで、戸惑うことなくペアの児童に伝えることができた。
- 「なごやっ子チャレンジスピーチ」の「反応フリップ」を使用し、話しやすい雰囲気をつくることはできたが、個別発表やグループ発表の際には適していなかった。

